

# ■しようなん

情報は湘南総局 ☎0463(36)0155

## 障害ある子ら 受け皿の場に

### 平塚に新就労施設 茅ヶ崎のNPO

特別支援学校を卒業した自閉症やダウン症などハンディのある子どもたちが就労できる受け皿づくりにはNPO法人「パーソナルサービセンタートムトム」(茅ヶ崎市萩園)が力を入れている。もともと特別支援学校の放課後に生徒を預かり、共働き家庭などを支えてきたが、保護者の要望も強く働く場づくりにも乗り出した。4月に平塚市南原に第1号となる「えぼっくハウス」を開所し、若者たちが自立に向けた第一歩を踏み出している。

トムトムは、障害児の一時預かり支援が十分でないころ、保護者らが1999年に発足。NPO化して10年を迎えた。現在、茅ヶ崎と平塚の両市に計5カ所の拠点を持つ。

特別支援学校の生徒が放課後を過ごすための支援策を平塚市が全国に先駆けて実施していることを受けて、トムトムでは5年前から施設で思春期の繊細な子どもたちのケアを続けてきた。しかし、卒業後はそれぞれ就労していくが、希望する施設に入れなかったり、新たな環境になじめないなど必ずしも本人が充実した日々を送れていないのが現状という。

そこで学生時代から親なじみの生徒たちがそのま

ま、就労できる場を整えようとする準備。今春、地域の理解もあり、商店や住宅が並ぶ一角に、えぼっくハウスを開くことができた。通うのは18〜20歳の男女10人(定員20人)で、通常はスタッフ5人が一緒に過ごす。古紙を回収し、細かく砕いた後、機械で成形し、自然に戻る「エコポット」を作るのが主な仕事だ。事業部長の露口信行さん(39)は「皆欠席することもなく得意な分野で働いている。今後は花屋さんで扱ってもらうなど販路を拡大していく。地域に溶け込んで、自立を手助けしたい」と意気込む。

トムトムでは今後、就労希望者が増えるを見込んでおり、新たな就労施設を用意するほか、就労を共にするグループホームも整えていくという。(牧野 昌智)



日中、エコポット作りに取り組む障害者ら

＝平塚市南原の「えぼっくハウス」